

白岡市議会議長 様

核も戦争もない平和な二十一世紀を求める要望書

広島・長崎を襲った悲劇から七十九年、世界には今もなお一万二千発以上の核兵器が存在し、各国のリーダーには対話と外交努力による核軍縮を進めることが期待されます。ロシアによるウクライナ侵攻は終結が見通せず、またパレスチナ・ガザ地区ではイスラエルによる空爆など一方的な攻撃によって、多くの国民、とりわけ女性と子どもが「生命」が奪われ続けています。ロシアはベラルーシに戦術核を配備することで他国を牽制、イスラエルは閣僚が原爆投下を容認する発言など、核兵器使用のリスクも高まり続けています。日本政府には当事国に対し厳しく抗議することを求め、一刻も早い停戦の実現に向けた協議を進展させていく必要があります。

岸田政権はオキナワの要塞化を進めて中国との緊張を煽り、さらに原発の再稼働や延命を進めています。岸田首相は先日訪米において、アメリカ合衆国をはじめ諸外国の軍事力と一っそうの強化・一体化を表明しています。そして、「広島出身の政治家として核兵器廃絶をライフワークとしてきた」と言いつつ、中国、ロシア、朝鮮の核兵器を批判する一方、アメリカの核兵器廃絶には言及しないという矛盾が露呈しています。『反核・平和の火リレー』では、「核と人類は共存できない」という原水禁運動のスローガンをもとに、すべての国の核兵器廃絶を求めています。

被爆地である広島・平和公園に灯る火を手に、多くの青年・女性・学生のランナーによって走り継ぎながら県内各自治体をまわり、平和の尊さを訴える『反核・平和の火リレー』運動は、今年で三十七回目を迎えます。この間コロナ禍前後で様々な議論をおこない、その都度方向性を示しながら、反核・平和の火リレー成功に向けて取り組んできました。しかしながら「近年の地球規模の環境変化からくる酷暑下でのランナーによる走り継ぐことへの見え方・あり方・考え方」を含めて議論し、走り継ぐことに拘るのではなく、取り組む時期に拘り要請行動のみ取り組んでいくことを確認しました。私たちの運動目的の一つでもある「県内全自治体での非核平和宣言」は、この三十七年間で十二自治体から六十二自治体（平和宣言等も含む全六十四自治体中・二〇二四年当実行委員会調べ）へと拡大してきております。私たちは、平和憲法を守り、再び戦争への道を歩まないために、そして原子力に頼らない社会の実現にむけて、今年も反核・平和を訴えるこの運動を成功させたいと考えております。

つきましては、この『反核・平和の火リレー』運動の趣旨をご理解いただくと共に、核も戦争もない平和な二十一世紀を目指すために、左記の事項につきましてご協力をいただきますよう、心からお願い申し上げます。

記

- 一、『非核・平和都市宣言（決議）』実施自治体として、平和行政諸施策の推進に向けて努力していただきたい。
- 一、国の基本方針である『非核三原則』を遵守する観点から、核兵器禁止条約の批准をはじめ、核兵器廃絶に向けて努力することを、国に要請していただきたい。
- 一、国家補償の精神にもとづく『原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律』のさらなる充実・改善を実施するため、政府への働きかけを行っていただきたい。
- 一、世界恒久平和を実現する観点から平和首長会議の『PXビジョン（持続可能な世界に向けた平和的な変革のためのビジョン）』の実現に向け努力していただきたい。
- 一、戦争の惨禍を再び繰り返さないために、集団的自衛権の行使に反対し、憲法を暮らしに生がした平和行政を一層発展させていただきたい。
- 一、危険な原発に頼らない安全で再生可能なエネルギー社会を目指していただきたい。

以上、要望いたします。

二〇二四年八月二八日

事務局

〒 三三〇・〇〇六三

さいたま市浦和区高砂三の三七の五

埼玉社会文化会館一階

TEL
FAX

埼玉青年学生平和友好祭実行委員会

実行委員長 田端 映里

